

日本の民間伝説～很久很久以前～

— 因幡白兔 —

很久很久以前，隱岐島的一只白兔想渡海到对岸的因幡国（现在的鸟取县东部），于是对海里的鲨鱼说：“我们来比一比，是你们一族的数量多还是兔子一族的数量多。你们在海中排成一排，我来数一数”，于是兔子踏在排成一排的鲨鱼背上过到了对岸。才刚到因幡国，兔子一不留神说漏了嘴“你们被骗了，我只是想渡海才叫你们排成一排的”，结果鲨鱼大怒之下，把兔子的毛全拔了剥成了全裸。

兔子毛全被拔了十分疼痛，在海边哭哭啼啼。这时走过来一群兄弟，众兄弟看见被拔了毛正在哭泣的兔子，对它说：“用海水洗个澡，让风吹一吹睡一觉伤就好了”，便走了。兔子照办了，但伤口碰到海水吹到风后更加疼痛不堪。众兄弟是开玩笑骗兔子的。

疼痛越来越严重的兔子又在海边哭泣，这时来了一个背着很多行李的男人。男人是先前路过的众兄弟的弟弟，由于背着哥哥们所有的行李，所以落后了众兄弟许多。弟弟从哭泣的兔子那儿听了事情的经过后对兔子说：“你用淡水洗身，再把宽叶香蒲的穗放到身上”，兔子照吩咐去做后，疼痛消除了，毛也恢复到了原来的样子。兔子非常高兴。

传说中这个善良的弟弟，据说后来成为了日本建国之神之一的“大国主命”。

にほん むかしばなし 日本の昔話～むかし、むかし～

いなば しろうさぎ — 因幡の白兔 —

むかしむかし おきしま わ しろうさぎ たいがん いなば くに げんぎい
昔々、隱岐の島の1羽の白兔が、対岸の因幡の国（現在の
とっとりけんとうぶ わた うみ およ さめ きみたち かず
鳥取県東部）に渡ろうとして、海を泳いでいた鯨に「君達の数と
うさぎ かず おお くら きみたち かず かぜ
兔の数のどっちが多いか比べてみよう。君達の数を数えたいか
うみ うえ なら い なら さめ せ うえ
ら海の上に並んでくれないか」と言い、並ばせた鯨の背の上を
わたっていきました。そして いなば くに つ ころ うさぎ ほんとう うみ
渡っていきました。そして因幡の国に着く頃、兔が「本当は海
わた きみたち なら
を渡るために君達をだまして並ばせただけなのさ！」とうっか
い おこ さめ うさぎ け ぜんぶ ぬ まるはだか
り言うと、怒った鯨は兔の毛を全部抜いて丸裸にしてしまいま
した。

うさぎ け ぬ いた いた かいがん な
兔は毛を抜かれて、痛くて痛くて海岸で泣いていました。す
るとそこに おとこたち しゅうだん とお か おとこたち け ぬ
男達の集団が通り掛かりました。男達は毛を抜か
な
れて泣いている 兔を見て「海の水で体を洗って、風に当たっ
ね きず なお い さ うさぎ
て寝ていれば、傷が治るだろう」と言い、去っていきました。兔
はその通りになりましたが、海の水と風は傷に沁み、痛さは増す
とこち
ばかり。男達はふざけて 兔に嘘を言っていたのでした。

ますますいた ま うさぎ かいがん な
益々痛さが増した 兔が、また海岸で泣いていると、そこにた
にもつ せ お おとこ とお か ききほどお
くさんの荷物を背負った男が通り掛かりました。それは先程通
か おとこたち おとうと あにたち にもつ ぜんぶ せ お
り掛かった男達の 弟で、兄達の荷物を全部背負わされていた
あにたち ずいぶんおく ある おとうと な
ため、兄達から随分遅れて歩いていたのでした。弟は泣いて
うさぎ じじょう き まみず からだ あら がま ほ からだ つ
いる 兔から事情を聴くと「真水で体を洗って、蒲の穂を体に着
けなさい」と言うので、うさぎはその通りにすると、痛さは収まり、
け もとどお は うさぎ たいそう よろこ
毛も元通りに生えてきました。兔はたいそう喜びました。

でんせつ どころ やさ おとうと のち にほん くに つく かみがた
伝説ではこの心の優しい 弟が、後に日本の国を作った神々
ひとり おおくにぬしのみこと
の1人「大国主命」だそうです。

とっとりけん はく と かいがん
鳥取県の白兔海岸にある
「大国主命と因幡の白
うさぎ」像

